

△この頃の少女の使ふ新しい言葉△

此節の少女はよく新しい言葉を使ひたがつて、好んでハイカラな文字を用ひたがる癖がある。そして中には驚く程知識の進んだ方々もあるけれど、それは極の少数で、一般にはまだなかなか珍妙な、ハツキリと意味の解つてない、單に聞きかぢり、生かぢりらしいのが多いやうに思はれる。私は私の妹や、知己の少女達が、その折々に云つた言葉を聞きとめたり、雑誌の投書で、眼ざはりに思つて見たりのしたのを、ノートに書き留めた。今それを皆様の御参考にもと記して見たい。(永代美知代)

◎ローマンス

小説、傳奇、稗史

史、又は物語とか、小説的事蹟とか云つた意味があつて、重に架空な物語と云ふ事に云ふのであるが、普通に用ひられて居るのは、古代ギリシャの物語などに當てはめられて居る。

「まあ何てローマンスなお話なのでせう? 全く不思議なお身の上ねえ」など、斯うした場合に用ひられて可笑しくない。

◎ローマンチツク

皆ローマンスと同じ語源から出て来た言葉で、ローマンチツクは、小説風の、中古文藝のと云つた風に、そしてローマンチズムとなる

と、十九世紀の初頭に起つた文學上の運動、即ち擬古文學反對の傳奇主義と云ふ意味である。

◎ネオ・ローマンチズム

新

ローマンチズムとでも云はうか、ネオは新しい意味である。中古の傳奇主義に満足が出来なくて、あきたりない近代の人々によつて起つた文學上の一主義なのである。

◎ナチュラリズム

自然主義の事、天然、天真、唯理論などの意味もある。

◎ニヒリスト

虛無主義者、虛無黨員——何者の權威をも認めず、何事にも興味を持たぬ人々はニヒリストである。だが、一般に用ひられて居るのは露西亞の虛無黨員を指して云ふ事で、露の作家ツルゲネーフがその作中に初めて用ひた熟語だとも云ひ傳へられてゐる。

◎ニヒル

ニヒリズム

つとも殆んど同じ意味で、ニヒルは虚

無、皆無、そしてニヒリズムは普通虛無主義と云ふ意味に當てはめられてゐる。

◎ボシビリチー

成し得べき、有り得べき、つまり可能性と云つた意味である。

「私我儘は嫌だわ、でもね我儘を通し得るボシビリチーを持つた人が好きなのよ」と云ふ風な場合に使はれる。

◎シンブル・ハーテツド

意、丹心、眞正直の、と云つた意義。

◎デリケート

デヂケート

何れも單純な言葉だけれど、發音の似通つて居るせいか、如何かすると同じ意味に用ひられて居るのを見受ける事がある。何と云ふ珍奇な間違ひだらう! 即ち

デリケートは繊細な、華奢な、精緻なと云つた風に、美しい優雅な意味と、一種快い喜しい意味とを持つて居る。例へば秋の夜垣根にすだく、あの

美妙な虫の音や、松虫、鈴虫など、さうしたものゝ薄絹のやうな翼を形容してはデリケートなど云はれよう。

だが、デヂケートはさうした形容詞ではないのである。

「私この書物を出版したらね、あなたにデヂケートする積りなの。」

斯うした風に、著者がその作物を極けようとする場合などに用ひられて居る。獻上するとか、捧けるとかの意味がある。

◎メランコリー

陰鬱なる、悲しき、悼まじきなどの意味を含んだ言葉で、「おムスキート、メランコリーな月光!」と云ふ風に使はれる。

◎アウト・ライン

輪廓、下書、下繪、略圖など、そしてある大部の書物の梗概を説いたりする場合に、アウト・ラインするなぞとも云ふ。

◎ハイ・トーン

調子の高い事、即ち高尚なと云ふ意味になる。

「松子さんのやうになりたいわ、本當にあの方ハイトーンだね。」

◎ドラマチツク

二つともドラマ——劇と云ふ言葉から出たもので、芝居がりのとか、劇的のとか云つた意味である。

「あの方の語つ振を御覽なさいな、随分ドラマチカルだね。」

こんな風に用ひて可いのである。

◎タイピカル

模範的の、代表的の、と云つた意味。

◎タイピスト

この頃は會社などで、字を書く代りに寫字器を用ひる。その器械を取扱ふ人をいふ。

◎ヒント

暗示、暗に知らせる、暗示するといふやうな意味がある。

◎センチメント

センチメンタル

センチメントは感情のこと、センチメンタルは感情強き、或は感情的な、云ひ換へれば神經過敏なといふ意。

◎ローカルカラー

地方の色調。